がんばるっ子

石橋 唯今(ゆい)さん（8）
落合町近似

『ミミズのふしぎ』で優秀賞
―青少年読書感想文全国コンクール―

第50回青少年読書感想文全国コンクールで高梁小学校3年の石橋唯今さんの「ミミズのふしぎ」が毎日新聞社賞(優秀賞)に輝きました。

唯今さんは、両親と兄姉の5人家族。家では、農業改良普及センターに勤めるお父さんの修さんが、生ごみを減らすために、発砲スチロールの箱で500匹余りのシマミミズを飼っています。興味を持つようになった唯今さんは、2年生の夏休みに「ミミズの食べ残し」の研究をしました。

今回選んだ本も、表紙に象の鼻のようなミミズが口を開けて小枝を食べているアップ写真が載っていたからです。

本を読んでいるうちに、「落ち葉や土、くさった木を食べることや、げんかがうんちでできている」など見慣れているミミズの不思議な生態が分かり、「おもしろい」の連続で素直に文章にしていきました。「ミミズのいる畑は、のう薬を使っていない、いい畑だとお父さんが言っていた」ことも書きました。

「お父さんは、ものしりで、いろいろなことを教えてくれます」と唯今さん。

修さんは、「いろんなものを見せたり、体験させてあげたい。コンサートや美術館、旅行にと家族でよく出かけます」と子どもたちには、何にでも関心を持つように接します。

担任の宇野範子教諭は、「そのきらきらした瞳で、たくさんの不思議を見つけ、これからも伸びやかに成長してほしい」と話されます。

唯今さんは、一輪車やなわとびなど体を動かすことが大好き。「校内マラソン大会では頑張りたい」と練習に一生懸命です。

コンクールへの参加校は、2万9855校、応募総数は400万7571点で、唯今さんが受賞した小学校中学年の部の優秀賞（毎日新聞社賞）は、全国で5人でした。

写真絵本「ミミズのふしぎ」

家族で行った北海道（ニセコ・アンヌプリスキー場にて）

ハリキッテマス！

グループ「かっこう花(ばな)」

代表　渡邉 吉子(よしこ)さん（62）

魅力ある地域づくりをめざして農産物の加工品づくりで活躍する、グループ「かっこう花」の皆さん。メンバーは40代から60代の女性6人。昭和56年に行われたまちの特産品づくり（県事業）をきっかけにグループを結成しました。「かっこう花（レンゲツツジ）」は、旧川上町の町花で"鮮やかなオレンジ色した花のようにいつまでも若々しく"と思いを込めて命名したそうです。キャッチフレーズは「明るく・楽しく・いつも笑顔で！」。

いろいろな加工品を手掛ける中で、特に力を注いでいるのが"弥高こんにゃく"です。原料のコンニャク芋は、有機肥料を使い、メンバー自らも自家栽培しています。製造はすべて手作業で、コンニャク芋をゆでた後、十分膨張させながらこね上げることが最も重要だそうです。弥高こんにゃくは、非常にやわらかく、その食感は、とても好評で、県外からの常連客もあるほど大人気です。

今年度「地域特産物マイスター*」に認定された代表の渡邉さんは、「一つのことを一生懸命やってきたことで、みんなすごく自信がつきました。これからますます楽しみです」と言葉を弾ませます。またメンバーの内田八重さんと加藤和子さんは「活動を通していろんな人とふれあうことができ、やりがいを感じています。グループは"和づくり"が一番大切。何でも話せる仲間です」と話しています。

田舎のお母さんの知恵と技術を駆使し、地域の活性化に一翼を担うグループ「かっこう花」。メンバーの皆さんが活動する加工場（川上町高山市 TEL ㊽3152）を一度のぞいて見てはいかがですか。

＊「地域特産物マイスター（制度）」･･･日本農産物協会が、地域特産物の栽培や加工などの分野で優れた技術を持ち、産地育成の指導者として活躍する人を認定・登録する制度。今年度は全国から19人が認定を受けている。

市民のページ

学園だより

高梁子どもフェスティバル
夢のおもちゃ箱
～とどけ未来へ～

順正短期大学 幼児教育科
助教授　前嶋 英輝

順正短期大学幼児教育科の主催で、恒例の「高梁こどもフェスティバル」を開催します。

毎年、会場が満席になるほど、多くの皆さんにご来場いただき誠にありがとうございます。

今年は例年にも増して楽しい企画を計画し、ご来場の皆さんに喜んでいただけるよう、現在、最後の練習に打ち込んでいます。幼児教育科の学生をはじめ関係者一同、たくさんの子どもたちと楽しい時間が過ごせるのを心待ちにしています。

【内容】
- 「おおかみと七ひきの子やぎ」劇
- 「アラジン」ミュージカル
- 「アンパンマン～夢と希望のファンタジー」ステージドリル
- 「みんな友達」「カントリーロード」合唱

日　時：3月5日(土)　13：30～15：30
会　場：総合文化会館　（原田北町）
主　催：順正短期大学幼児教育科
後　援：高梁市教育委員会

わたしの健康づくり

楽しく歩いて 身も心も元気になろう！

今井 常祐(つねすけ) さん(77)
（成羽町成羽）

「年をとると自分の体を自分の足で支えて歩けることがありがたい」と笑顔で話す今井さん。

週2回、自宅からなりわ運動公園まで約4キロ歩いています。「雪が降った朝はいつもよりにやる気がでるんです。誰も踏み入れていない真っ白なグラウンドに、自分の足跡を一番に付けるのがすごく楽しいんだよ」とうれしそう。また、高梁で買い物をする時は、駐車場に車を停め、ループ橋を歩いて登り、高梁の街並みや自然を眺めています。

今井さんは「成羽徒歩の会」の仲間と県内各地で行われる「歩け歩け大会」に参加して、多くの記念品のバッチを集めています。そのバッチはリュックサックに所狭しとつけられ「このリュックサックを背負って歩いていると、いろんな人から声をかけられるんですよ。それが嬉しくてね」と笑顔で話されます。

これまで自分が健康で居られたのは、歩くことを通し仲間や自然とふれあい、自分なりの楽しみを発見したからだと言います。

「自分の体は自分の足で支えて歩くという気持ちを大切にしてほしいです。行きたいと思うところへ自分の足で行く。そうすれば今まで気づかなかった楽しみが増えると思いますよ。皆さんも楽しく歩いてみませんか？」と歩く楽しさを話されます。

徒歩の会のメンバーと記念写真

編集後記

今月号では、今年10月に開催される「晴れの国おかやま国体」の特集で、学校や地域の団体・個人を紹介しました。国体への参加の仕方は異なっていても、高梁を訪れる選手や関係者を温かく受け入れようとする気持ちは、同じであると感じました。

新市になって初めての大きなイベントで、地域が一つになるチャンスでもあります。競う人、応援する人、そして支える人。国体は一人ひとりが主役です。だれもが参加でき、喜びを分かち合えます。キラリと輝く高梁になるように、今後の活動に期待し自らも出来ることから始めようと思っています。

全国から選手らが集まる国体は、高梁の「文化」や「人の温かさ」を伝える絶好の機会ではないでしょうか。

（TK）